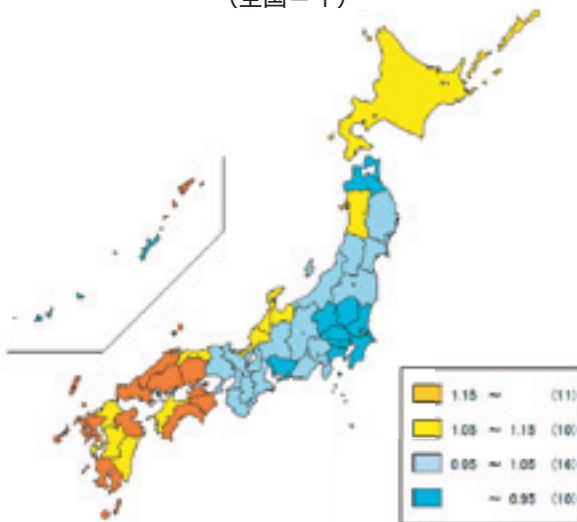


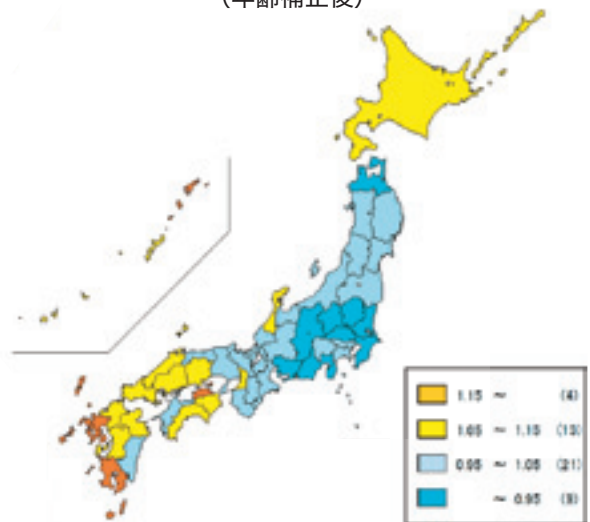
局では医療費の地域差を公表しており、下にあるように、医療費は地域によって大きく差があることがわかりますが、その原因もまた様々です。医療費に最も影響を及ぼすのは年齢構成であり、その年齢構成の影響を除いたものが「医療費の地域差指数」ですが、年齢構成の影響を除いてもなお、医療費には地域差があり、この地域差の原因を様々なパラメータを想定した上で分析を行うこともまた、数理職員の役割の一つとなっています。

医療費の地域差

1人当たり実績医療費の対全国比
(全国=1)



地域差指数
(年齢補正後)



3 将来推計

医療費の分析を行うことにより、将来の医療費の見通しを立てる事も可能となります。実際に「社会保障と税の一体改革」で行われた医療費の将来推計においては、以下のような結果を公表しています。これを見ると2025年度には医療費は61.8兆円となり、その医療費をどのように公的医療保険によって賄っていくかが極めて重要な議論となります。政策的な意思決定の際には数理職員が算出した数値をベースに、将来のあるべき姿について議論がされることとなるのです。

医療費の将来推計

